

①



# 慈光

秋 号

- ①お知らせ
- ②彼岸会・報恩講
- ③行事予定
- ④住職のコラム

## お盆の供花

### ○お盆詣りの御礼

お盆詣りでは、ありがとうございます。一人でお詣りをするようになったり七年となりました。皆様には、懐かしさの中でのお詣りにかかわらず、温かいお声をたくさんかけてくださいました。紙面で甚だ失礼とは存じますが、御礼を申し上げます。

### ○秋の諸行事のお知らせ

秋になると忙しくなるのが慈光寺です。2頁と3頁に、これからの行事予定をお知らせいたします。是非お詣りください。

### ○寺報『慈光』の発行回数について

年に4回発行の寺報ですが、郵便料金の急な値上げ通知があり、遺憾ながら発行回数を減らすことにいたしました。来年度からとなりますが、春号3月始め、秋号8月末から九月初め、年末号11月中頃として、お盆詣りのお知らせは、来年からは封書または葉書でのお知らせを予定しております。

### ○寺院維持年会費 志納のお願い 納骨堂ご利用の方を除く

いろいろ大変なことで存じますが、後期分の維持費と彼岸会報恩講の志納を頂戴できますれば幸いです。同封の振替用紙、または志納袋をご利用下さい。なお一部、志納袋、振込用紙が入っていない場合もありますが、便宜上、どうかご了承ください。

② ○秋季彼岸会 永代経法要

九月二十一日(金)～二十三日(土)

午後一時 法要 真宗講座

春のお彼岸に引き続き、法要後、浄土真宗で問題になつてゐることを住職がお話しします。両日とも約一時間程度を予定しています。専門的な内容になるかと思いますが、今、京都で問題になつてゐることを、一緒に考えましょう。

昼食を午前十一時半頃からご用意をしています。二十一日カレーライス。二十三日炊き込みご飯です。彼岸会期間中の月詣りはお休みです。

○納骨堂参詣時間 午前九時から午後六時まで

※供花 五百円をご用意しております。

時間外のお詣り希望の方は、恐れ入りますが、一度お寺にご連絡を下さい。セキュリティ対策のため時間を設定してLINEを「理解ください」。

○親鸞聖人報恩講

十月二日(月) 大逮夜 午後一時半 法話二席

御伝記 午後五時

初夜 午後五時半 法話一席

十月三日(火) 晨朝 午前七時

結日中 午前十一時 法話一席

△布教師 香川県 善性寺住職 千葉憲文師

※三日朝のお詣り後は、御法話はございません。

法要期間中は月詣りはお休みです。この他、法要の準備等で左記の月詣りをお休みいたします。

九月三十日(土) 報恩講準備のため

十月四日(水) 後片付けのため 祥月はお詣りします



○慈光寺秋の行事予定と任職の予定

十月と十一月は、何かと行事が重なり、任職も秋の法要、龍谷大学への出講と学会などがあり、お寺を空ける日程があります。現在、予定している行事予定と合わせて任職の予定をお知らせします。

十月十三日(金) 山口真宗教学学会 予定)

十月二十四日(火) 龍谷大学出講

十一月八日(水)～九日(木)

龍谷総合学園全国総会 出席予定)

十一月十日(金)～十二日(日) 法泉寺報恩講出仕

十一月二十四日(金)～二十七日(月)

木辺派本山錦織寺御正忌出仕

※変更になるかもしれませんが、十一月いっぽうまで、バタバタの毎日になります。がんばります。

○追弔会 真宗入門について

十一月二十三日(木) 午後一時半より

来る十一月二十三日(木)、午後一時半より平成二十八年十一月から平成二十九年十月末日までにお亡くなりになった方の追悼法要をいたします。それぞれのお宅での法事とは異なり、お寺として個別に故人のお名前を法要中に読み上げます。あらためて御案内をいたしますが、是非、お詣り下さい。

法要の後、浄土真宗とは、どんな教えなのかについて、講師をお呼びしてお話をいただきます。一般の方へも御案内をします。京都の話をお聞き下さい。

講師 龍谷大学教授 浄興寺 玉木興慈師

③



株式会社

博善社

札幌中央区南14条西7丁目

011-512-1111

## 住職さんにきいてみよう その40 佛のちかい

④

「浄土三部経」の中で、親鸞聖人がもっとも重要視したのが『無量寿経』二巻です。とくに浄土真宗では、上巻に書かれている四十八の願いが説かれているところが重要です。親鸞聖人はこれを「**四十八願**」（しじゅうはちがんと呼びます。その中の第十一、十二、十七、十八、十九、二十、二十二願を選び、第十七願と第十八願を殊の外重視します。

「四十八願」とは、『無量寿経』で、法蔵菩薩（ほうぞうぼさつ）と言われる菩薩が、多くの修行をしていく中で、最後に四十八の願いを聞き届けられなければ、成仏、この場合、阿弥陀仏に成ることはできないと誓います。

親鸞聖人がいう「阿弥陀仏」ですが、身近には仏壇の本尊に飾ってある仏様をご覧下さい。仏壇を見ると、優しい顔立ちでこちらを見ていますね。でも阿弥陀仏の姿が本当にそのような姿なのかは分かりません。もちろん、実在の人ではありません。お経の中にも、阿弥陀仏の姿について触れるところがあります。が、どんな姿なのかは分かりません。仮の姿（方便の姿）として、私達の前に現れたのが、お仏壇に飾られ

ている本尊であり、私達の知識では仏の存在が分からないので、目の前に仏が実在しているかのよう示しているだけだと、親鸞聖人は『一念多念文意』（いちねんたねんもんい）の中でおっしゃいます。

阿弥陀仏は光明を放ち、それは智慧の光でもあるといえます。難しい表現ですが、本尊の阿弥陀仏の絵像（掛け軸）をご覧いただくと、後ろから光を譬えたように描かれていますでしょうか。私達は心に迷いがあり、煩惱に苛まされています。それを阿弥陀仏の計り知れない光で、すべてを照らし、汚れた私達を照らしてくれているといえます。しかし、なかなかそれは気がつかないで過ごしています。

法蔵菩薩が阿弥陀仏に成る前に、四十八も誓うのは、すべての者を救い仏と成ってほしいからです。法蔵菩薩は、願いを成就し阿弥陀仏と成っても、お経の中ではさらに願い続けています。それを「本願」と言います。成仏してもなお、衆生救済を願い続けている阿弥陀仏に対して、私達は何も気がつかずに、己の欲望のままに生活していることを心から反省しないといけません。何をしたら良いのか。次回考えましょう。

お盆詣りでは、毎年、皆さまには励まされます。近況をお伺いしたり、短い時間ですが、本当にありがとうございます。息つく暇もなく、行事シーズンを迎えます。夏の疲れが出てきている私達ですが、気持ちを入れ替えて、法務をがんばります。どうか皆さんも体調に気をつけて、お寺にお詣り下さいね。合掌